

調査の概要

1. 調査の目的

大田区政の各分野における区民の意向、要望を把握し、今後の施策に反映するための基礎資料とする。

2. 調査の内容

<大田区基本構想> <大田区長期基本計画> に基づき3つのテーマに分け、意見を聞いた。また、経年比較を重視し、例年通り「定住性」と「新しい区政の進め方」を加え、下記の内容とした。

- (1) 定住性
- (2) どこもさわやか潤い都市づくり
- (3) いつもいきいき安心生活づくり
- (4) みんなはつらつ輝き地域づくり
- (5) 新しい区政の進め方

3. 調査の設計

- (1) 調査地域 大田区全域
- (2) 調査対象 大田区に居住する満20歳以上の男女個人
- (3) 調査対象数 2,000
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- (5) 調査方法 調査員による個別面接聴取法
- (6) 調査期間 平成18年9月1日～9月14日
- (7) 調査機関 株式会社 エスピー研 調査事業部

4. 回収結果

- (1) 回収数 1,432 (71.6%)
- (2) 回収不能数 568 (28.4%)

| | | | | |
|------|------|-------------|------|-------------|
| (内訳) | 転居 | 55 (2.8%) | 住所不明 | 18 (0.9%) |
| | 長期不在 | 64 (3.2%) | 拒否 | 231 (11.6%) |
| | 一時不在 | 199 (10.0%) | その他 | 1 (0.1%) |

(注) 長期不在とは、出張、帰省などで調査期間中不在のもの。

5. この報告書の見方

- (1) 図表中のnは該当質問での回答者総数のことである。質問に対する回答は1つの場合や、3つまで、あるいは、いくつでもよい場合（複数回答）などがあるが、複数回答の場合、合計比率は100%を超える場合がある。
- (2) 百分比はnを100%として算出し、単純集計についての本文及び図表中では原則として小数第2位を四捨五入して小数第1位まで示し、クロス分析については小数第1位を四捨五入して整数で示した。このため、百分比の合計が100%に満たない場合や上回る場合がある。
- (3) 複数回答とは、回答が2つ以上ありうるという意味である。従って、比率の合計は100%を超える場合がある。
- (4) 図表によっては「無回答」の表示を省略する場合がある。
- (5) 数表やグラフの回答選択肢表記は、コンピュータソフトの都合上省略しているところがある。
- (6) クロス集計のグラフは、比率の小さな回答についてはコンピュータソフトの都合上省略しているところがある。

6. 標本誤差について

この調査の標本誤差（サンプル誤差）はおおよそ下記の表のとおりである。標本誤差は次の式によって得られる。標本誤差の幅は、比率算出の基数（n）、及び回答の比率（P）によって異なる。

$$b = 2 \sqrt{2 \times \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差（二段抽出の場合）
N = 母集団数
n = 比率算出の基数（サンプル数）
P = 回答の比率

(注) 後にかかげる表は $\frac{N-n}{N-1}$ 1 として算出した。本調査は層化を行っているので誤差はこの表よりやや小さくなる。

たとえば、回答者総数（1,432人）を100%とする比率について、ある質問の回答率が50%

であった場合の標本誤差を計算すると、 $b = 2 \sqrt{2 \times \frac{0.5 \times (1-0.5)}{1,432}} = \pm 3.7\%$ となる。

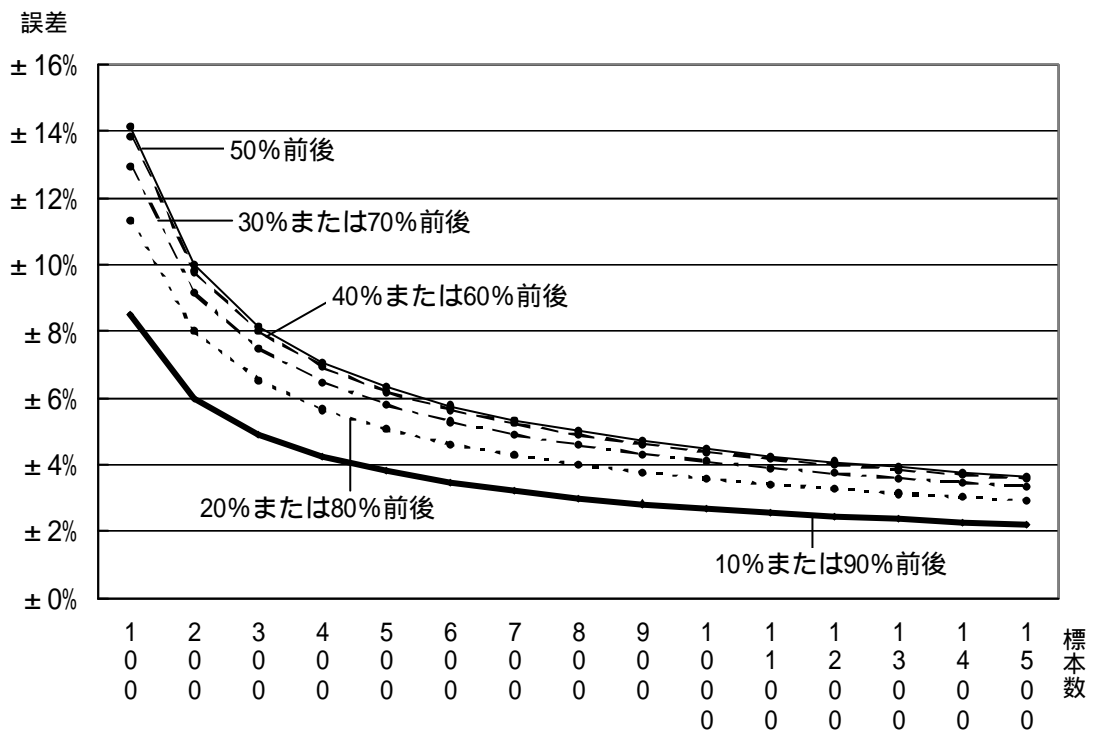
つまり、回答者総数（1,432人）を100%とする比率について、ある質問の回答率が50%の時、大田区民（満20歳以上の男女）の真の値は46.3%～53.7%の間にあると考えられる。ただし信頼度は95%であるので、そのように判断して95%は間違いないという意味である。

nとpを上記の式に代入すれば、必要な標本誤差はすべて計算できる。

次に、標本誤差早見表をかかげる。

(本調査の特性では……………)

| 回答の比率(P) | | 10%または90%前後 | 20%または80%前後 | 30%または70%前後 | 40%または60%前後 | 50%前後 |
|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|--------|
| 基数(n) | | | | | | |
| 回答者総数 | (1,432人)のとき | ±2.2% | ±3.0% | ±3.4% | ±3.7% | ±3.7% |
| 女性 | (748人)のとき | ±3.1% | ±4.1% | ±4.7% | ±5.1% | ±5.2% |
| 大田北地域行政センター | (487人)のとき | ±3.8% | ±5.1% | ±5.9% | ±6.3% | ±6.4% |
| 無職(主婦) | (259人)のとき | ±5.3% | ±7.0% | ±8.1% | ±8.6% | ±8.8% |
| 男性30代 | (110人)のとき | ±8.1% | ±10.8% | ±12.4% | ±13.2% | ±13.5% |



(両図表とも信頼度95%)

7. 調査対象者の抽出

- (1) 母集団 大田区内に在住する満20歳以上の男女個人
- (2) 抽出台帳 大田区住民基本台帳
- (3) 標本数 2,000
- (4) 調査地点数 200地点
- (5) 抽出法 層化二段無作為抽出法
- (6) 地域区分 区内を、4か所ある地域行政センターがそれぞれ所管する区域を単位として次の4地区に分類し、それぞれを層とした。

| 地域行政センター | 所管区域 |
|-------------|---|
| 大田北地域行政センター | 大森東特別出張所管内、大森西特別出張所管内、入新井特別出張所管内、馬込特別出張所管内、池上特別出張所管内、新井宿特別出張所管内 |
| 大田西地域行政センター | 嶺町特別出張所管内、田園調布特別出張所管内、鷺の木特別出張所管内、久が原特別出張所管内、雪谷特別出張所管内、千束特別出張所管内 |
| 大田南地域行政センター | 六郷特別出張所管内、矢口特別出張所管内、蒲田西特別出張所管内、蒲田東特別出張所管内 |
| 大田東地域行政センター | 糞谷特別出張所管内、羽田特別出張所管内 |

図1 地域行政センター所管区域図



- (7) 地点数の配分 1地点が10標本になるように各地域(層)における20歳以上の人口(平成18年8月1日現在)に応じて地点を比例配分した。(合計200地点)
- (8) 地点抽出 各地域ごとに地点数に応じた対象者人口インターバルを定め、各地点のスタート番号を無作為系統抽出した。
- (9) 対象者抽出 抽出された各地点のスタート点より、1地点10標本ずつのサンプルを無作為系統抽出した。

以上の結果、地域別の地点数、標本数及び完了数は次のとおりである。

| 地域行政センター | 20歳以上人口(構成比) | 地点数 | 標本数 | 回収数(率) |
|-----------------|------------------|-----|-------|---------------|
| 大田北地域 行政センター | 187,656 (33.4%) | 67 | 670 | 487 (72.7%) |
| 大田西地域 行政センター | 143,784 (25.6%) | 51 | 510 | 364 (71.4%) |
| 大田南地域 行政センター | 170,355 (30.3%) | 60 | 600 | 431 (71.8%) |
| 大田東地域 行政センター | 60,597 (10.8%) | 22 | 220 | 150 (68.2%) |
| 合計 | 562,392 (100.0%) | 200 | 2,000 | 1,432 (71.6%) |